



平成 27 年度みやぎ産業教育フェア さんフェア宮城 2015

2015 年 11 月 7 日に行われた「平成 27 年度みやぎ産業教育フェア (さんフェア宮城 2015)」は 03 年以來、実に 12 年ぶりの開催となり、県内 47 の学校から、延べ 1,000 人以上の生徒が参加し、会場の勾当台公園と宮城県庁は大勢の人でにぎわいました。今号では当日の生徒たちの展示・発表や会場の様子についてご紹介します!

産業教育の魅力伝える祭典

宮城県農業高校の和太鼓部による迫力満点の和太鼓演奏で幕を開けた「平成 27 年度みやぎ産業教育フェア (さんフェア宮城 2015)」は、勾当台公園の野外音楽堂には大勢の来場者が集まり、高校生たちによる日々の練習の成果に歓声を上げた。さんフェア宮城 2015 は、農業、工業、商業、水産、家庭、看護、福祉、総合学科、特別支援学校の 9 つに分類される県内の専門高校などに通う生徒たちが、日頃の学習成果を広く紹介する催しで、産業教育の魅力を発信し、振興を図ることを目的としている。また、発表や体験、交流などを通して、東日本大震災からの復興を担っていく生徒の、産業人・職業人としての意識啓発・



宮城県農業高校の和太鼓部演奏で始まった「さんフェア宮城 2015」

屋外に展示された渾身の力作

志の醸成につながる機会となった。会場となった勾当台公園では、圧縮空気機関車の乗車体験や生徒が作ったお米の食比べなど、生徒たちが実習や課題研究の中で制作した作品の展示発表や販売などが行われた。石巻工業高校のブースでは、「土木系学生によるコンクリートカヌー大会」で 3 連覇を成し遂げた重さ 20・3 キログラムのコンクリートカヌーを展示。その製作過程や、実物の大きさ、質感、重厚感に、来場者は圧倒された様子だった。加美農業高校のブースでは乳牛の乳搾り体験が行われ、貴重な体験をした子どもたちは「思ったより温かかった!」と興奮気味に語った。

子どもも大人も大盛り上がり

県庁で行われた展示発表の中でも特に目を引いたのが「キッズビジネスタウン」だ。入口には自衛隊の車両やパトカー、消防車などが並び、子どもたちは憧れの職業を体験。ロビーにも、喫茶店の店員や市役所の職員など様々な職業が体験できるブースが設けられた。名取高校、松山高校の家政科の生徒たちは、自らデザイン制作したきらびやかな衣装を身につけてファッションショーを行った。童話をモチーフにしたドレスからカジユア



50 を超す展示や体験ブースには大勢の来場者が訪れ、生徒たちの作品に見入っていた

宮城県工業高校がものづくり日本大賞を受賞 県教育委員会教育長を訪問し、成果を報告



「緊張した空気の中で今まで一番良い作業ができました。結果を残すことができて良かったです」と語る化学工業科 3 年の中村小牧さん



「周囲の支えがあったから結果につながった」と、生徒から感謝の意が示された

「第 6 回ものづくり日本大賞 賞文部科学大臣賞」を受賞したことを受け、12 月 21 日、宮城県工業高校大内栄幸校長をはじめとする教員や生徒 13 名が、宮城県教育委員会高橋仁教育長を訪問し、成果を報告した。生徒は「考えたものをパソコンで表現するのは難しかったけれど、受

賞したことで自信につながった」など、練習時の様子や取り組むための思いを語った。「ものづくり日本大賞」は日本の産業・文化を支えてきたものづくりを継承・発展させるため、その担い手となる優秀な人材などを顕彰する制度。高橋教育長は「次世代のものづくりを担う高校が宮城にあるということを誇らしく思う。学んだ技術・技能を存分に生かし、社会で活躍する人材になっ

てほしい」と語った。

社会人としての心構えやマナーを学ぶ 「みやぎ高校生入社準備セミナー」

1 月 14 日、宮城県登米総合産業高校において、「みやぎ高校生入社準備セミナー」が開催された。これは就職の内定した高校生に、社会人としての基礎的なマナーや知識を身につけてもらい、入社後に感じるギャップを和らげることに、就職後の定着率を高めることなどを目的としている。当日は、内定者を含め就職を予定している三年生 115 名が参加。日本ソフィアトータルマネジメン

ト代表の北井一行氏を講師に招き、社会人としての心構えやビジネスマナーの基礎について学んだ。社会人の先輩として自身の体験を交えながら話す北井氏は、「社会に出ると人は見かけで判断されることが多い」「SNS で会社のことをつぶやいてはいけない」など、具体例を挙げて説明。生徒たちは熱心に耳を傾け、キーワードをノートに書き取っていた。生徒からは「見かけで判断されるのなら、気をつけよう」「現場を知っている方から聞くのは参考にな



本年度開校したばかりの同校の真新しい階段教室で、講師の話聞きながらすまじと熱心にノートを取る生徒たち



講師の北井一行氏は、序盤で生徒たちのハートをつかんでわかりやすくトーク

る」といった声があがった。「みやぎ高校生入社準備セミナー」は、県の主催で 2009 年度からスタート。今年度は県内 25 校の高校生が参加した。

県内若年者の地元就職を促し、 高度人材育成、地域経済・企業の活性化へ

2 月 15 日、宮城県、仙台市、および県内 12 の高等教育機関の間で、「みやぎ・せんだい協働教育基盤」による地域高度人材育成に関する協定が締結された。協定は「地域高度人材の育成」「次世代の地域経済を担う企業の育成」「人材の定着と地域経済の活性化」を 3 本の柱とし、各高等教育機関、自治体、産業界、金融機関が連携し、県内の大学生の地元就職



記念撮影。県内の若年者の地元定着と企業の活性化が期待される

宇宙ロボット開発の取組を紹介 第 14 回東北ポリテックビジョン講演会

2 月 19 日、20 日、栗原市の東北職業能力開発大学校において、「第 14 回東北ポリテックビジョン」が開催された。本イベントは、同校や短期大学校(秋田県大館市・青森県五所川原市)の学生・教職員による研究開発成果の発表・展示を通して、ものづくりの教育訓練のシステム、内容、水準などを、高校生、学校関係者などに直接理解してもらおうというもの。

19 日に行われた講演会で、東北大学大学院工学研究科教授の吉田和哉氏が、「宇宙探査ロボットへの挑戦」と題して、小惑星イトカワから微粒子を持ち帰って話題となった小惑星探査機「はやぶさ」の開発プロジェクトを紹介。このプロジェクトに、立ち上げから参加し、着陸や採取の実験に携わっていることに触れた。このほか、2017 年末までに月面探査ロボットを送り込み探査を競う国際レースへの挑戦についても紹介があった。



吉田教授が宇宙ロボットに興味を持つきっかけは、8 歳のときにリアルタイムで見たアポロ 11 号の月面着陸だったという

すためには失敗を恐れずチャレンジしていくという風土を作っていくことが大事」と参加者に語りかけた。